



# 女子力まぶすケーキ

## 京都精華女子高

### めざせ「パティシエール」

# まな ビバ! 教育/2014

パンや洋菓子作りを学ぶ「パティシエール」の授業。高校3年生33人は5月中旬、チョココルネを作った。「イーストは砂糖の隣よ。油脂を入れたらカードで起こして練って」。家庭科の田辺利加教諭(46)の指導で、生徒3人1組の作業がてきぱきと進む。

「パティシエール」は4年前に創設された選択授業の一つ。女子校ゆえに、仏語で菓子職人を表す「パティシエ」の女性形「パティシエール」を科名にした。

履修者には菓子職人を自覚する生徒が多い。基礎から技術が学べるほか、有名洋菓子店のパティシエの指導や、ラテアートも授業もある。

深田さくらさん(17)は「卵や牛乳アレルギーの人も食べられるような、おいしくて健康的なお菓子を作りたい」と話す。

コミュニケーション能力を高めるため、実習の班は抽選で決める。3年経てば、だれとでも意思疎通がとれるようになり、段取りも上手になる。

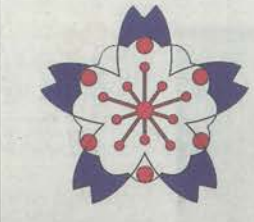
田辺教諭は「男女平等でも女子力は失ってほしくない。相手を思う気持ち、女性らしさを考えるきっかけにしてほしい」。

この日は今夏のスイーツ甲子園に向けたケーキの試作にも挑戦した。味は抹茶やチョコ、チーズケーキなど連発。クッキーなどで作った人形や小さな建物のデコレーションに力を入れた。

試作段階の今はまだ、生地が硬すぎたり、あめ細工がうまくいかなかったり。渡辺和さん(17)は「失敗を繰り返さんと、材料の適量に分かる。本当においしいお菓子を突きつめるのは楽しい」。

3時間半でパンとケーキが完成した。試食すると、手作りのおいしさが伝わる、懐かしい味わいだ。

しかし、生徒からは「ミカンとチーズが合っていない」「デザインがあか抜けてない」と、自分の班以外のケーキにも辛口コメントが飛び出す。放課後も、卵黄と卵白の分量で変わるスポンジの違いを実験し、あめ細工の練習にとりかかるといふ。(森泉明香)



## 来年 創立100周年に

1905(明治38)年、前身の精華女学校が開校し、68年現校名になった。来年創立100周年を迎える。全校生徒500人。西に鴨川、東に大文字山を望む校舎では、付属の中学生124人も学ぶ。

生徒の個性を生かしながら、「知(知性)・律(自己律)・礼(礼儀)」の教育方針のもと、「やさしく、かしこく、つよい女性」の育成を目指す。入学時から、幼児教育、吹奏楽、パティシエールなどの選択授業が受講できる総合進学コースのほか、美術、看護・医療、人間科学スポート、難関私立大学受験を目指すE-X特進の各コースに分かれる。

学内の茶室で行う茶道や、礼儀作法の授業は女子校ならではの取り組み。新入生を対象に、府警による痴漢対策講座もある。



座もある。部活動も盛んで、7割を超える生徒が参加。サッカー部、バスケットボール部、なぎなた部は強豪で、全国大会出場経験もある。

京都精華大学と連携し、美術コースなどで月に数回、高大連携講座がある。同コースでは、同大芸術学部の宮永甲太郎准教授(45)を招き、茶道茶わんを作る授業があった。できあがった茶わんは、飲み口のついた小さな球状になったものから、大きな器までさまざま。最後は茶室で自分の器を使って茶道体験もした。2年の大東汀さん(16)は、「高校では技法の基礎を中心に勉強したけれど、大学の先生に哲学的な理論も教えてもらおうと、作品に広がりがあると感じた」と話す。宮永准教授は、「大学でも高校でも、架空のものを形にする想像力の大切さを訴えるのは変わらない。高大の橋渡しになればいい」。



女子校ではめずらしいサッカー部とラグビー部がある。激しい練習を想像して訪れたグラウンドには軽快な音楽が流れ、笑顔があふれていた。

サッカー部は一昨年度の全国大会3位の強豪だが、練習はドリブルやパスなどの基礎練習がほとんど。週末の練習試合でその成果を試すといい、主将の谷口木乃実さん(17)は「練習を楽しみ、やるときはやる。それが精華サッカー」と語る。

ラグビー部は全国の女子校で初めて2年前に創部された。ラグビー経験のある北川茂伸教諭(38)が教える。主将の岡田恵梨香さん(17)は「試合は激しく痛いときもある。女の子けど、もっと強くなりたい」。



女子校生活について、「みんなサバサバしていて気負わず楽しめますよ」と語るのは、生徒会長の岩本華琳さん(18)。会長も副会長もみんな女の子。それだけに議長朝日沙也加さん(17)も「人の目を気にせず、本気で意見をぶつけたり、物事を主体的に考えたりできるようになった」と話す。普段の学校生活はやりたいことに全力を出す分、休日は化粧をしたりおしゃれを楽しんだり、女性らしさも忘れないのだから。そんな4人の将来の夢は「政治家」「教師」「語学で世界をとびまわる」「パティシエ」。顧問の土本光宏教諭(52)は「礼儀正しさを忘れず興味関心を突きつめる姿勢が精華の生徒ですね」。



### 興味関心を突きつめる姿勢

バスケットボール部の監督は、京都精華学園の理事長も兼務する山本綱義校長(63)だ。普段は生徒のあいさつに優しく応える山本校長だが、部活の練習を見守る視線は厳しい。

この日も「今の落としたりあかん!」。練習を中断させ、なぜ失敗したのかを考えさせる。「『カーナビ』のように指示に頼らず、人と協力して自力で解決できる人になってほしい」。

生徒にもその気持ちは届いている。主将の田中絢女さん(17)は「1人がだらしないう格好をしていけば精華の生徒全員がそう思われる」とか、全校集会でのお話は部活で聞いたことばかり。人生の生き方を教えてもらっています。



### 人生の生き方を教える監督

次回(10日)は府立北桑田高校(右京区)を紹介します。